

会 議 録

会議の名称	令和 3 年度 第 1 回社会教育委員会議
開催日時	令和 3 年 7 月 2 6 日 (月) 午後 2 時 ~ 午後 3 時
開催場所	所沢市役所 7 階研修室
出席者の氏名	別紙のとおり
欠席者の氏名	別紙のとおり
説明者の職・氏名	
議 事	(1) 郷土資料の保存・活用について (2) 成人のつどいについて (3) その他
会 議 資 料	資料 1 : 今任期テーマ「郷土資料の保存・活用」について 資料 2 - 1 : 令和 2 年度第 7 4 回所沢市成人のつどい出席者数 資料 2 - 2 : 成人のつどい出席率推移 資料 2 - 3 : 令和 4 年度以降の「成人のつどい」開催の方針
担 当 部 課 名	教育長 大岩 幹夫、教育総務部長 千葉 裕之、教育総務部次長 市川 雅美、スポーツ振興課長 廣谷 貴紀、文化財保護課長 稲田 里織、生 涯学習推進センター所長 酒井 忠夫 教育総務部社会教育課 社会教育担当参事 吉田 謙治、主査 和田 順子、主査 金田 俊一、 主任 高橋 幸大、主任 竹迫 祐亮 教育総務部社会教育課 電話 0 4 (2 9 9 8) 9 2 4 2

所沢市社会教育委員会議出欠一覧

令和3年7月26日（月）午後2時から 市役所7階研修室

選出根拠※	氏名	備考	出欠席
学校教育 関係者	いしい のぶあき 石井 伸明	所沢市立小中学校校長会 (美原小学校校長)	出
学校教育 関係者	いしみなめ ゆうだい 石嶺 雄大	所沢市幼児教育振興協議会 (美原幼稚園 園長)	出
社会教育 関係者	かとう いちお 加藤 市男	所沢市公民館運営審議会 民生・児童委員	出
社会教育 関係者	なんば ひろゆき 難波 裕之	所沢こどもルネサンス実行委員会	出
社会教育 関係者	たけうち まこと 竹内 聡子	所沢市スカウト協議会 (ガールスカウト埼玉県第36団)	欠
社会教育・ 家庭教育 関係者	はりゆう きよみ 針生 清美	柳瀬小学校図書ボランティア代表 柳瀬公民館保育スタッフ 柳瀬荘黄林閣(国重要文化財)管理人	出
社会教育 関係者	おざわ さだやす 小沢 貞泰	(元)北秋津小学校区 心豊かな子どもを育てる学校と地域づくり連絡会議 北秋津ネット 議長	出
社会教育 関係者	こまつ ふみこ 小松 扶美子	所沢市連合婦人会 会長	出
社会教育・ 家庭教育 関係者	こやま ともひろ 古山 智啓	所沢市PTA連合会 会長	出
社会教育・ 家庭教育 関係者	こばやし ひでこ 小林 ヒデ子	民生・児童委員 人権擁護委員	出
社会教育 関係者	すどう とくこ 須藤 とく子	人権擁護委員 (元市内小学校長)	出
学識経験者	いとう あきよし 伊藤 明芳	秋草学園短期大学 文化表現学科 教授	出
学識経験者	おおぎはら あつし 扇原 淳	早稲田大学人間科学学術院 教授	出
学識経験者	たなべ しんいち 田部 真一	元市内小学校長	出
学識経験者	はやし こういち 林 宏一	所沢市文化財保護委員会委員長 さいたま市岩槻人形博物館館長	出
学識経験者	せき なおき 関 直規	東洋大学文学部 教育学科教授	出

※選出根拠＝所沢市社会教育委員条例第2条

令和3年7月1日現在

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
<p>議長</p> <p>社会教育担当参事</p>	<p>【 1 開会】</p> <p>【 2 委嘱状の交付】 新委員に教育長から委嘱状を交付した。</p> <p>【 3 あいさつ】 《教育長、議長があいさつを行った後、議長の進行により協議に入った。》</p> <p>【 4 議事】 （ 1 ）郷土資料の保存・活用について では、議事 1 郷土資料の保存・活用について、事務局から説明をお願いしたい。</p> <p>本日は、7月1日から委嘱した委員がいること、収蔵施設整備の検討についてはこれから動いていくということで、今任期 1 回目と 2 回目の振り返りをさせていただきます。資料 1 を見ていただきたい。</p> <p>「 1 . 郷土資料とは 」 について、郷土資料とは、郷土に関する資料のことで、地域の歴史や文化を知ることができるもののことを言い、 から まで詳しく分類されている。これらのうち本市においては、歴史的文化的価値の高いものを保存している。</p> <p>「 2 . 郷土資料をめぐる課題の整理 」 については、 から まで箇条書きで挙げている。現在所沢市では、郷土資料のうち、収蔵できるものについて、市内 3 カ所にある民俗資料館、生涯学習推進センターにある文化財保護課、埋蔵文化財調査センター、所沢図書館等で保存している。しかしながら、それぞれの施設が温湿度や警備体制など資料の保存に適した環境でないことが課題となっている。また、それぞれの施設で現在収蔵しているスペースが埋まっており、これ以上の収集が困難なことも課題となっている。十分な施設がないことから、郷土資料の他機関への流出といったことも発生している。</p> <p>「 3 . 郷土資料を保存・活用する意義 」 については、郷土資料を将来世代に引き継ぐこと、郷土を理解する場、郷土愛やシビックプライドの醸成、まちづくりにおける個性の基礎ともなり、観光面の集客にもつながるものと考えている。郷土資料の収蔵施設を設け保存していくとともに、市民共有の財産として活用することが望まれている。</p> <p>「 4 . 収蔵施設整備 」 については、「第 6 次所沢市総合計画」で郷土資料を保存する施設の整備について検討することが必要であると位置づけられてお</p>

議長

り、現在市内の施設で分散保管している各種資料の一元管理ができ、温湿度や警備体制など、資料管理に適切な環境の整っていることに加え、保存したものの展示や市民活動に活用していくことが重要と考えている。

今任期の社会教育委員会議では、郷土資料をめぐる所沢市の現状や課題を踏まえ、日々地域で社会教育活動を実践している社会教育委員の方々に、各々の視点で、郷土資料の保存だけでなく活用する視点で意見をもらい、収蔵施設整備に反映していきたいと考えている。

「5. 審議状況」について、今までの会議では、様々な意見をいただいた。下記に会議で出た今任期テーマに関するご意見を一部抜粋して記載している。

資料1の1枚目の1番下、「令和4年度以降に外部有識者での収蔵施設整備計画策定委員会の設置を予定しています」という点が目に留まった。また、裏面の今任期2回目の1番上、「収蔵施設の構想を作っていく上で社会教育委員の視点を得たい」という点が目に留まった。この点については、社会教育委員は様々な立場の人がいるため、保存活用について、様々な視点から意見をいただきたいということである。

前回の会議を終えて、社会教育委員会議の審議だけでは、なかなか意見がまとまらないのではないかという意見が出た。そこで、少人数の研究グループを作り、そこで能率的・集中的に審議をしていくことを事務局と相談した。研究グループで審議し、その内容を社会教育委員会議で報告して各委員から意見をもらい、それをまた研究グループで審議していきたいと考えている。進め方について意見はあるか。特になければそのような方向で進めていきたい。

研究グループのメンバーについては、所沢市社会教育委員会議小委員会設置要綱というものがあり、「委員は、社会教育委員のうちから社会教育委員会議議長が指名する。」との規定がある。それを準用し、それぞれの委員の所属や経歴を踏まえ、私から研究グループメンバーの候補者を指名させてもらいたい。要綱によると5名と規定があり、次の5名を指名させていただきたい。針生委員、石井委員、小沢委員、須藤委員、林委員、以上の5名にお願いしたいが、何か意見はあるか。特に意見がなければ拍手で承認いただきたい。

(拍手をもって一同了承)

では、以上の5名で研究グループを進めていきたい。また、所沢市社会教育委員会議小委員会設置要綱第5条第4項に、議長は小委員会に出席し意見を述べることができることと記載があるので、私も研究グループ会議に出席する予定である。事務局から何かあるか。

<p>社会教育担当参事</p>	<p>研究グループを設置するが、社会教育委員全員の意見をもとにまとめを作成していく。次回以降も今任期のテーマ「郷土資料の保存・活用」について審議をしていくので、社会教育委員の皆様においては、引き続きよろしく願いたい。</p>
<p>議長</p>	<p>(2) 成人のつどいについて 続いて、議事2 成人のつどいについて、事務局から説明をお願いしたい。</p>
<p>社会教育課</p>	<p>まず令和2年度の成人のつどいについて、報告させていただく。年度当初から、成人の日の開催に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言が発令されることになり、3月20日に延期して行った。所沢市は地区分散方式をとっており、市内の11行政区には実行委員会が置かれ、検討を重ね、地区の特徴を生かした式となっている。</p> <p>出席率は平均で57.4%であった。令和元年度の出席率は66.3%だった。日程変更やコロナ禍を考慮しても57.4%の新成人が参加したことになる。</p> <p>一昨年度までは、式典とつどいの二部構成だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止と密を避けるという観点から式典のみの開催とした。</p> <p>今年度の成人のつどいについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため緊急事態宣言が仮に発令されたとしても、密を避けながら、十分に感染対策を講じた上で、成人の日に開催できるようにと考えている。会場に関しては、昨年度をベースに考えている。</p> <p>最後に、民法改正により2022年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられ、それにより、成人のつどいの対象者をどうするのか、また、名称をどうするのか、課題となっていた。2年前に、2022年度に18歳を迎える、中学3年生の生徒さん達にアンケートを取ったところ、成人式の対象年齢は20歳を希望する人が多い結果となったこと等から、所沢市では当面の間20歳を対象とすることとした。名称に関しては、「はたちのつどい」や「はたちの祝い」といった案が出ている。他に思い当たる名称があればご教示いただきたい。</p>
<p>議長</p>	<p>私から質問したい。山口地区の出席率がかなり高いがどうということか。</p>
<p>社会教育課</p>	<p>山口地区は毎年出席率が良く、100%を超えることもある。居住地区で会場を決めているが、別の会場にも参加できることとしているため、出席率が高くなっている。</p>

議長	それはなぜか。会場の工夫があるのか。
社会教育担当参事	友達が山口地区の成人のつどいに参加するから、山口地区に参加している方もいると考える。
議長	他にも理由があるのではないか。
委員（小沢）	引っ越し等を理由に対象地区ではなく別の地区の会場に参加することがあるので、出席率が100%を超えることはあり得ると思う。山口地区が多い理由については、山口地区は中学校が2つあるので、人数が多くなっていることが考えられるのではないか。
委員（古山）	山口地区は、PTA活動が盛んで、地区内小中学校のPTA会長同士の横のつながりが強い。長くPTA会長をしていた人が、成人のつどいを開催する側になり、子ども達の特性をわかった上で開催内容を考えているとも聞いたことがある。このように地域でのつながりがあり、魅力的な成人のつどいとなっているため出席率が高くなっているのではないか。
議長	山口地区では、出席率が100%を超えることもあるが、出席率が少ない地区では、30%程度の出席率である。なぜこのようになっているのか調べる必要もあるかもしれない。
社会教育担当参事	今後、研究していく。
委員（石嶺）	私は所沢市出身で、所沢市の成人式に出席した。友達の中には、対象地区の会場でなく、別の会場の成人式に参加していたようである。地区によって出席率が違うのは、大変興味深いデータであると思う。例えば、並木地区は防衛医大があり、転居してしまう方もいるので、出席率に違いが出てくるのではと感じる。
委員（小沢）	人間地区社会教育協議会の主事部会の昨年度活動報告に、新型コロナウイルス禍で成人式をどのように開催したかがまとまっている。これを見ると、成人式という名称を使っている自治体が多いと感じる。
委員（加藤）	3月20日に三ヶ島地区の成人式が開かれた。来賓の数が限定され、地区の代表と中学校恩師の代表を来賓とした。式典のみで、第2部は無かったが、参加した新成人は当時の恩師のあいさつに感激して同窓会のように楽しんでい

議長	<p>た。</p> <p>他に何かあるか。無いようであれば、議事 2 は以上で審議終了としたい。</p> <p>(3) その他</p> <p>令和 3 年度社会教育関係課の事業計画について、各所属より説明があった。</p>
議長	<p>何か意見はあるか。</p>
委員 (難波)	<p>所沢こどもルネサンスについて、子ども達が会場に集まらずに実施できる事業は文学のひろばとまんがイラストコンクールの 2 つだけである。また、昨年度、リモートで実施したトコトコタウンについては、以前のようにたくさんの子もたちを会場に集めて実施することは難しいのではないかと考えている。他の事業は人数を減らして実施しようと考えている。前回の会議でも伝えたが、今後オンラインでの事業も実施していくためには、公民館の w i f i 環境が整い、学校から子ども達に配布するタブレットが私たちの活動に使用できるとありがたいのでご検討いただきたい。</p>
議長	<p>工夫してやっていかなければならないと感じた。全体を通して他に何かあるか。</p>
委員 (伊藤)	<p>教員の立場としては、新型コロナウイルス禍において、学生がボランティアやインターンシップに出れない状況を感じていたが、各所属の事業の状況を聞き、延期や中止となる事業、実施方法を工夫しながらやる事業があることがわかり、新型コロナウイルス感染症の影響の大きさを感じた。</p> <p>成人式については、民法上は 1 8 歳成人となるが、1 8 歳は環境移行期でもあり、2 0 歳で実施する方が心理的な意味でも動機づけにつながると思うので、2 0 歳で実施するのが望ましいと考えている。</p>
委員 (関)	<p>郷土資料等の保存活用を一体的に進めていくのは重要な事であり、大事な資料が他の市や機関へ流出してしまうのは、残念であると感じる。できる限り収蔵できる環境を整える必要がある。</p> <p>活用という視点で考えると、地域の方々の学びを支援するような郷土資料の活用方法を検討してほしい。もちろん郷土資料は昔から受け継がれているものであるが、今生きている人たちの視点、現代的な価値をもう一度定める、解釈を新しくすることによって生きてくると思うし、そういうプロセスが大事だと</p>

副議長	<p>感じる。地域の方々が受け身ではなく主体的に想像したり、単に消費するだけでなく発信する過程が活用に入っていると感じている。</p> <p>事業計画にあった文化財保護課のふるさと研究活動は、まさに郷土資料を活用する取り組みであると感じた。以前の社会教育委員会議で最近子ども会活動が難しいという議論もあったが、このような社会教育関係団体にふるさと学習という新しい支援の仕方を提案すれば、社会教育関係団体にとって次の一歩に進みやすくなると感じる。</p> <p>収蔵施設を社会教育施設として位置付けているのはすごく大事な出発点である。その基盤には学校教育と社会教育、様々な自主グループや総合的な学びの時間がある。これらが一体的に展開できるような拠点的な役割を収蔵施設にイメージしていくと、社会教育施設としての特性を生かせると感じている。</p> <p>【 5 その他】</p> <p>副議長から、本日の会議のまとめがあった。</p> <p>郷土資料の保存活用については、所沢市としての課題があるので、収蔵施設についてもう少し研究を進めながら、所沢市で日本各地の施設より先進的な施設ができれば良いと思う。</p> <p>成人のつどいについては、今年は3月開催となり、例年と比べ参加者は少なかったが、新成人にとっては成人のつどいに集まって近況報告するのもコミュニケーションの1つであり、開催されて良かった。今後もその機会を奪ってほしくない。</p> <p>【 6 閉会】</p> <p>《議長の閉会宣言後、閉会となる。》</p> <p style="text-align: right;">《以上で終了》</p>
-----	---